

第 93 回 市川市廃棄物減量等推進審議会

< 議題、報告に対するご意見等 >

回答書により寄せられたご意見とそれに対する回答は下記のとおりです。

【議題】 今後の審議会におけるメールによる会議資料の送付について

【結果】 賛成者全員（条件付き賛成含む）※希望される方にのみ郵送対応とする。

意見	回答
<p>メール配信の目的により、賛成か反対か分かります。</p> <p>資料のメール配信により、審議会の会場ではタブレット、パソコンを貸し出しして、できる限り紙の資料を減らすことを目的とするのであれば大いに賛成します。</p> <p>委員が自分で資料を印刷し、持参することを目的とするのであれば反対です。市川市役所での紙の使用量を減らした分、他のところで使用量が増えるだけで、トータルでは減らしたことにならないためです。もしもそのことで市役所での紙の使用量を減らしたと評価するのであれば、誤った情報となります。（宇仁菅委員）</p>	<p>資料のメール配信により、審議会の会場に直接お越しいただく際に、ペーパーレスの一環として委員の皆様がご自身のタブレット等を持参していただくことを想定しております。</p> <p>ご自身でタブレット等を持参することが困難である場合、その旨を事前に事務局にご連絡いただければ、当日ノートパソコンを貸し出しすることは可能でございます。</p> <p style="text-align: right;">（循環型社会推進課）</p>

【報告（1）】 資料 1 令和 2 年度のごみ排出量等の実績について

意見
<p>コロナ禍とはいえ、収集量増加、資源回収量・持ち込み量の減少と、前年まで着実に減量目標に向かっていった流れが止まり、上向いたことは残念です。更なる創意と工夫でクリーンセンター建替え、最終処分場の無い本市の厳しい現実に対応して欲しいです。</p> <p>（金子委員）</p>
<p>令和 2 年度は、コロナ影響により在宅者が増えたため、家庭ごみが増加しています。市全体として資源化が進み、焼却処理量が減っていくことを望みます。そのために、学校でもごみ問題を扱い環境教育を充実させていきます。（田代委員）</p>
<p>令和 2 年度は一人一日当たりの排出量及び家庭ごみの収集量が多くなっておりませんが、コロナ禍のため、家にいる時間が多くなったことが要因と思います。それで燃やすごみが週 3 日になったことはやむを得ない事と思います。</p> <p>ただ、3 回にしたことで本来ならば資源で出す紙・冊子などがかなりまぎれているように感じます。3 回に定着はせず、やはり週 2 回に戻せる日が近いことを念じます。</p> <p>（松本委員）</p>

市川市は年々人口が増加していますので、ごみの排出量を減らすのが大変ですね。新聞を読む人が少なくなっているのが、データに表れています。(かまがた委員)

【報告(2)】資料2 ごみ減量施策に関するアンケート調査結果について

意見	回答
<p>実施方法について教えてください。eモニターアンケートと記載してありますが、どのような方法でしょうか。</p> <p>また市役所では一般的に使われる方法でしょうか。もしもインターネットや電子メールでの調査であれば、高齢者の対象が少なく、高齢者の意見が反映されていない結果と言えないでしょうか。(宇仁菅委員)</p>	<p>本アンケートは、市川市 e-モニター制度という市川市が運営する登録制のアンケート制度を利用して実施しました。</p> <p>本制度では、モニターとして登録していただいた方に、インターネットを活用し、パソコンや携帯電話へ電子メールで市からアンケートや情報を発信し、回答して頂きます。</p> <p>このアンケート方法は、市川市では市民の意向を把握する方法の一つとして、各部署において一般的に行われているところです。</p> <p>また、多くの自治体においても、「市政モニター制度」等といった、同様のアンケート方法が導入されているものと認識しております。</p> <p>今回のアンケートでは、10代から80代以上と様々な年代の方からご回答頂いております。</p> <p>年代別にみますと、多い順に50代:29%、40代:23%、70代:17%、60代:16%、30代:7%、80代以上:5%、20代:2%、10代:0%と、高齢者の方からのご意見が十分に反映された結果と考えております。</p> <p>(生活環境整備課)</p>
<p>1,236名の64件、約5%回答で知っていないことはないが、市川市の世帯数228,000世帯として、5%は11,400世帯にあたります。この人達はルールを守らない恐れがありますが、この数字はどう判断しますか。(原木委員)</p>	<p>周知率100%が市としての目標ですが、集積所のごみ出しマナーの実情を見る限り、一定数は、ルールを知らないか、あるいは知ろうとしない方々があり、それを表した数字として捉えております。</p> <p>(生活環境整備課)</p>
<p>④燃やすごみ週3回という収集頻度についてちょうどよい68%は、コロナの時だけ3回だからですか。</p>	<p>④の設問文では「新型コロナウイルスの影響から」としてありますが、排出機会の増加による市民の利便性を考慮して、今後も「週3回がちょうどよい」としている意</p>

<p>⑤「令和3年4月1日よりごみの収集曜日を変更したことを知っている」が95%の結果なのに、まだ多くのごみが違う曜日に出ていると思います。</p> <p>⑦「ごみの減量やりサイクルに関心はある」が95%の良い結果であるが、あくまでも関心があるだけの問題ですか。 (安東委員)</p>	<p>見も含まれているのではないかと考えております。</p> <p>⑤の設問につきましては、収集日カレンダーのほかに、集積所の看板についても変更しておりますので、違う曜日にごみを出す傾向は減っていくものと考えております。</p> <p>ただし、一定数ごみのルールを無視する方々は存在しますので、その方々への周知、改善に向けた働きかけは、今後の課題と考えております。</p> <p>⑦の設問につきましては、お見込みのとおりと認識しております。 (生活環境整備課)</p>
--	--

<p>その他の意見</p>	
<p>e モニター1,236名の回答数は立派です。市民のごみの減量の関心の高さが判ります。新型コロナで在宅が増え、自ずとごみの増加が顕著です。週3回収集周知95%は市民の関心が高いです。回数の増減がごみの量の増減につながることは、余り理解されていないのかもしれませんが。(金子委員)</p>	
<p>コロナの影響により、収集回数を週2回から3回に増やしたことは、現状から仕方がないと思います。</p> <p>学校でもSDGsについて学習し、持続可能な社会を実現する市民を育成していきます。 (田代委員)</p>	
<p>自宅のごみが増えたと感じた人と、そうでない人の割合にあまり差はなかったですが、実際の量は増えていました。この意味は何だろうと思います。今年度の量を見たいです。(柳沢委員)</p>	
<p>私もeモニターですが④に収集回数を3回の頻度にしたことについて「ちょうどよい」が68%となっております。</p> <p>たしかに家庭ごみが増えたことはわかりますが、これは、eモニターは比較的若い方が登録しておるのではないかと思います。ライフスタイルに合わせたごみの減量を考えてもらいたいものです。とともに一日も早くコロナ感染が収束することを祈りたいものです。 (松本委員)</p>	
<p>燃やすごみの収集が週2回から3回になったことにより、山積みのごみ収集場が見苦しくなっていたのが良くなり、道路の美化になったと思います。 (かまがた委員)</p>	